

砂像屋内展示施設の建築について

砂像屋内展示施設の建築については、芦屋港活性化基本計画で掲げた全天候型施設の活用方法を砂像屋内常設展示施設としたうえで、施設の設計を行ってきましたが、建築概算工事費の高騰により、砂像屋内展示施設の建築を取りやめるとの考え方に至ったものです。

また、芦屋港活性化基本計画で掲げた全天候型施設の要否及び広場等の活用方法を改めて検討していくため、これまでの経緯や今後のすすめ方について、次のとおり説明するものです。

1 これまでの経緯

- ・ 令和3年5月 芦屋港活性化推進委員会
* 全天候型施設の活用方法を砂像屋内常設展示施設とする
- ・ 令和4年10月 砂像屋内展示施設の設計着手
- ・ 令和5年3月 芦屋港活性化推進委員会
* 砂像屋内展示施設の設計（展示室、延床面積）経過報告と開業時期変更（令和7年度から令和8年度に変更）の説明
- ・ 令和5年5月 砂像屋内展示施設の建築概算工事費の算出

2 建築取り止めに至った理由

設計過程で延床面積の増加や資材高騰により、建築概算工事費が約25億円と算出され、国庫補助金を除く一般財源額が巨額になったため。

3 今後のすすめ方

芦屋港活性化基本計画で掲げた「全天候型施設」の要否及び活用方法の再検討を行い、芦屋港活性化推進委員会にて審議していく。再検討にあたっては、管理運営組織（DMO）の事業に大きく関連することから、みなと準備室を中心に、民間事業者等の支援を参考しながら、事業全体の収支計画等により検討していく。

4 今後のスケジュール

- ・ 令和5年8月 芦屋町議会にて報告
- ・ 令和5年9月～ 全天候型施設の要否及び活用方法の再検討
- ・ 令和5年10月 住民周知（10月号広報）
- ・ 令和6年7月 芦屋港活性化推進委員会にて要否及び活用方法の説明